

いわいずみ 議会だより Iwaizumi

2014
1.15
No.

166

発行 岩手県岩泉町議会

まちの笑顔 84

そり遊び楽しい～♪
(岩泉小学校)



JR 岩泉線の廃止受け入れ 2p

岩泉乳業へ4億円補助 4p

町の考えを問う (7議員が一般質問) 6p

町民との意見交換会「議員と語る会」開催報告 14p

の廃止を受け入れ

昭和 47 年 2 月 6 日 浅内から岩泉までの延長開業を祝う町民



12月定例会は12月4日から6日までの3日間にわたり開かれまして。初日の本会議では、JR岩泉線廃止受け入れに関する行政報告がありました。一般質問には7人の議員が登壇。条例制定と補正予算は特別委員会を設けて集中審査。その結果、すべての議案を全会一致で原案のとおり可決しました。



通学、通院、買い物、観光。長年町民の足を支えた岩泉線は、平成26年4月に廃止となる予定です

て、県による国道340号の協議に

送および地域貢献に関する「廃線後の代替輸送」を受けて、町は県や宮古市とともに、鉄道復旧の議論とは切り離して公式協議に応じてきました。

今後は、県による国道340号の道路改良整備が一日も早く実現するよう全力を傾注し、取り組んでいきます。



R 東日本から9月5日に提案された「廃線後の代替輸送」を受けて、町は県や宮古市とともに、鉄道復旧の議論とは切り離して公式協議に応じてきました。

定例会初日に橋場覚副町長が行政報告を行いました。内容を要約してお知らせします。



行政報告を行う副町長

の道路整備の意向が示されたことなどを踏まえ、道路改良へ向けた諸条件が整ったものと判断し、苦渋の決断ではありませんが、やむを得ず県や宮古市とともに廃線を受け入れたところです。

これを受けてJR東日本はJR岩泉線の鉄道事業廃止届を11月8日に国土交通省へ提出し、受理されたことから、平成26年4月1日をもって廃止となる予定と聞いています。

協議の経緯を行政報告

岩泉乳業

工場増設へ4億円補助
累積赤字の解消を目指す

岩泉乳業(株)に対して4億円の補助を決定しました。これは、好調なヨーグルトの需要に対応するため、ヨーグルト工場を増設するものです。

製造規模は、ドリンクヨーグルト1ト/日、ハードヨーグルト4ト/日、チーズ450kg/月です。

このことにより、新たに7人の雇用が見込まれます。



大人気の岩泉ヨーグルト



春に発売以来、約3万本を販売した人気のドレッシング



条例補正予算審査特別委員会（佐々木久任委員長）

では、条例改正や補正予算を審査しました。

審査の結果、付託された32議案すべてを可決すべきと決定。その後の本会議で、全会一致で原案のとおり可決しました。委員会の審査の中からいくつかの質疑を要約してお伝えします。

工場増設 町単独の持ち出し額は将来的に乳業が負担する

問 国の補助金により施設整備を行うとのことだが、町単独の持ち出しはないか。
答 補助対象事業費は4億円、1/3を国が補助、残りの2/3を町が補助する。過疎債や交付税により

問 町単独の持ち出し額は将来的に乳業が負担する。
答 現在の売り上げは、約8億円である。今回施設を整備し、2年目以降に全体の稼働率が8割になると、売り上げは10億円を超えるの見込まれる。また、工場増設により町内で生産される牛乳の全量を使用できると考えている。
問 増設したときの販路計画はあるか。

売上高の推移と経常損益の推移

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
売上高	3億3913万円	5億8589万円	7億3853万円
経常損益	△2415万円	3941万円	6691万円
累積損益額	▲3億5470万円	▲3億1682万円	▲2億5672万円

●消防団員の報酬額（年額）

職名	改正後の額	改正前の額
団長	140,000円	115,000円
副団長	96,000円	80,000円
分団長	68,000円	59,000円
副分団長	53,000円	44,000円
部長	41,000円	36,000円
班長	30,000円	23,000円
上記以外の団員	24,000円	18,000円
機能別消防団員	12,000円	9,000円

問 平成7年以来19年ぶりに消防団員の報酬を値上げしたが、適正な額か。
答 宮古市消防団の報酬と同額であり、先に諮問した町消防委員会の答申に基づいている。
問 費用弁償の額は田野畑村や普代村より低い。さらに上げる考えはなかったか。
答 町の財政状況を踏まえ、県平均並みとした。



訓練する消防団員（消防演習）

消防報酬
 値上げ額は適正か
 町消防委員会の答申

答 来年の冬に工場が本格稼働する見込みである。乳製品の需要は多く、販路は心配ない。
問 増設した工場で作る新製品のチーズは、販路を見つけるのは大変だと思うが、販路を確保しての製造開始となるか。
答 ホテルやレストランを対象に営業活動を行っており、販路は確保できる。

問 温泉探査のための地質調査の結果を聞く。
答 放射能探査と電磁探査を行ったが、可能性は低い

温泉
 地質調査結果を聞く
 残念ながらほぼ全滅

問 10月に行われた県の学力定着度調査の結果を聞く。
答 本町は複式学級を抱える小規模校が多く、個人の成績が推定される状況にあるため、公表すべきでないと考えている。

学力
 全国テスト結果の公表は
 小規模校多く公表しない



町内会行事で餅つきをする子どもたち

問 文部科学省は来年度からの全国学力テスト結果の公表を各自自治体の判断に任せている。町の対応は。
答 小学校は、4年生が国語、算数、5年生が国語、算数理科のテストを行い、4年生の国語、算数、5年生の理科が県平均を上回っている。
 中学校は1年生が国語、数学、英語、2年生は国語、社会、数学、理科、英語のテストを行い、すべての教科において、県の平均を上回った。

との結果であった。湧水地1カ所で温泉成分を含む箇所があった。

菌床シイタケのバック詰め作業の様子
 (岩泉きのこ産業)



問 岩泉きのこ産業(株)に多額の債務が積み残されたまま今年4月に廃業した菌床シイタケ生産者がいる。生産をやめると債務の解消は難しい。解決策を問う。
答 町の補助金を受けた菌床シイタケの生産者が、残念ながら生産を中止した。岩泉きのこ産業に負担をかけるわけにはいかないので、協議の上、解決策を探る。

シイタケ
 売上債権の解決策は
 岩泉きのこ産業と協議

問 龍泉洞付近に観光イチゴ園を開設するなど、ハウスを別用途で利用し売上債権を圧縮する考えはないか。
答 シイタケ以外の園芸作物の生産や移設など、遊休ハウスの活用を検討する。

12月補正予算の状況

会計名	補正額	補正後の予算額
一般会計	7億5113万円	172億6029万円
特別会計		
国民健康保険(事業勘定)	3689万円	16億6641万円
介護保険(事業勘定)	571万円	14億6991万円
簡易水道	1223万円	4億7388万円
観光事業	1030万円	1億4210万円
公共下水道事業	78万円	1億7417万円

津波防災施設について 町当局から発言がありました

条例補正予算審査特別委員会

小本津波防災避難施設の整備に伴う建築、機械、電気等各工事について11月12日に入札を行ったところ、建築工事が不落(※)になりました。

建築工事の2度目の入札を11月28日に行いました

が、落札されませんでした。このようなことから、計の見直しを行い、年末に工事費増額の補正予算案を提案する予定です。

一日も早い工事発注を目指して取り組みますので、ご理解をお願いいたします。

町の考えを問う

一般質問

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をただすこと、あるいは報告や説明を求めるとを言います。

この一般質問により、執行機関の政治姿勢を明らかにするとともに、政治責任を明確にさせます。結果として「現行の政策変更」や「新規政策を採用」させるなどの効果があります。内容を要約して登壇順(質問順)にお知らせします。

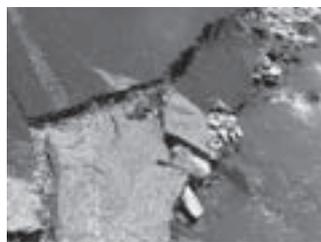
第5回臨時会

—小本地区の調整池 用地の取得を可決—

第5回臨時会は10月28日に開かれました。この臨時会では、漁業集落防災機能を強化するための調整池整備用地の取得に関する議案などが提出され、すべての議案を全会一致で原案のとおり可決しました。

調整池用地の取得内容は次のとおりです。

▼場所 岩泉町小本地内
▼土地 28筆、6282・89平方メートル



集中豪雨で被害を受けた道路

▼金額 7350万円
また、7月の国境・見内川地域集中豪雨災害の復旧に伴う補正予算を次のとおり可決しました。

10月補正予算の状況

会計名	補正額	補正後の予算額
一般会計	4億5150万円	165億916万円
簡易水道特別会計	650万円	4億6165万円

7人の議員が発言

～質問内容～

① JR 押角トンネルの早期整備を
畠山直人 7p

① テレホンカードを義援金に
② 町長の任期後半のビジョンは
八重樫龍介 8p

① トマトの袋培地栽培導入を
② 鳥獣被害対策に ICT の活用を
三田地久志 9p

① まちづくり総合計画を検証すべき
② テレビ共聴施設改修費に補助を
③ 冬期間の交通確保を地域協働で
坂本 昇 10p

① 三陸道インター付近に道の駅を
② 岩泉南インターに乗り入れ口を
三田地和彦 11p

① 災害住宅の駐車料金を無料に
② 国保税を引き上げ前に戻せ
林崎竟次郎 12p

① 押角トンネル完成を5年以内に
② 事業検証し抜本的な施策を
③ 小規模校の統合議論を
野舘泰喜 13p

(※) すべての入札が予定価格を上回り落札できなかったこと



JR押角トンネルの早期整備を

はたけやま なおと
富山 直人 議員

期成同盟会を立ち上げ要望を展開

伊達 町長

富山直人議員 JR岩泉線は、平成26年3月末で廃止が見込まれている。平成22年7月31日の土砂崩落による列車脱線事故での運休以来、町はJR東日本や国土交通省などに懸命な要望活動を行ったが、願いむなし、復旧を断念する結果となった。

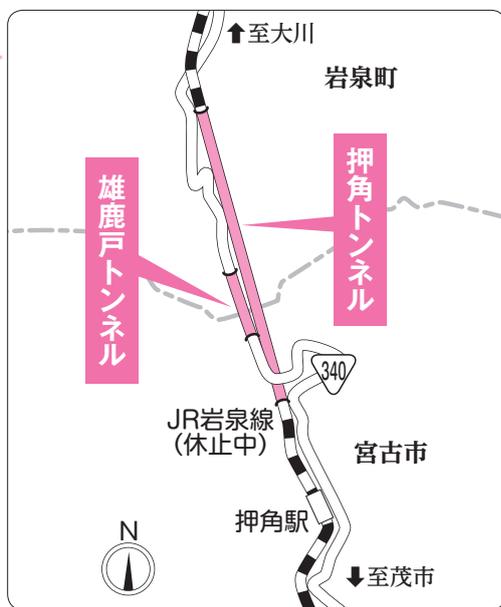
また、県はJR岩泉線押角トンネルを活用して道路化にする道路改良事業計画を明らかにし、総事業費約65億円のうち、約20億円をJR東日本から資金協力を得るなど、大きな成果を引き出した。

伊達町長 国道340号の道路整備について、県はJR岩泉線押角トンネルを活用して道路化すると表明している。

にトンネル本体に着工予定である。

今後は、利便性向上の観点から道路改良整備が一日も早く実現するよう、全力を傾注し取り組む。

近日中に宮古市とともに押角トンネルの早期整備に向けた道路整備促進期成同盟会を立ち上げ、県や関係機関に対し強力に要望活動を展開する。



改良が待たれる国道340号。すれ違いも大変です



テレホンカードを義援金に

やえがし りゅうすけ
八重樫 龍介 議員

民間団体などを含めた検討を

伊達 町長

町の考えを問う

八重樫龍介議員 携帯電話の普及でほとんど使用しなくなった未使用のテレホンカードを換金して被災者に義援金として活用してはどうか。町民に提供を呼びかけ社会福祉協議会などに依頼して取り組めないか。町民課および各支所の窓口で専用ポストを設置することで対応できると思うが、考



義援金としてテレホンカードを活用できないか検討します

伊達町長 未使用のテレホンカードは、NTTで換金していないことから金券ショップでの換金手法となる。この場合、換金率の不透明感や信頼性に不安要素があり、町社会福祉協議会に依頼することは難しい。民間団体などでの活用を含め今後の検討課題とする。

町長 平成11年12月に町長に就任して以来14年間、一貫して「大きな樹が育ち明日が見える岩泉」をまちづくりの基本目標に掲げ、町のあるべき将来像を描きながら、一心不乱にまい進してきた。今後2年においても震災復興を着実に進め、



幸せが実感できる魅力ある町づくりを進めます

八重樫議員 町長の任期が2年たち、折り返し点に差し掛かった。東日本震災の復旧復興は、他市町村に比べて着実に事業が進んでいる。また、小本地区は「びーちゃんねっと」の告知端末の設置工事が終わり使用可能になっている。これらは前半2年の中でも大きな成果である。今後は、環太平洋連携協定（TPP）の対策など問題が山積している。後半の2年の具体的ビジョンを聞く。

被災者が安心して住み続けることができるまちづくりを目指し努力する。また、過疎からの脱却を目指す施策として重点的に取り組んできた定住化の促進に向け、子育て支援施策の一層の充実、徹底した6次産業化の推進による産業振興、第三セクターの基盤強化による健全経営と事業拡大による雇用創出、さらに所得向上策など強力に取り組む。新年度に具体的な施策を展開する。この町のみならず、未来を創るため、これまで以上に積極果敢に取り組んでいく。

町長の任期後半のビジョンは定住化促進を積極果敢に



トマトの袋培地栽培導入を

三田地 久志 議員
みたち ひさし

奨励に向けて検討を開始する

伊達 町長

三田地久志議員 国は2018年で減反政策の廃止を打ち出し、TPP締結の方向である。就農年齢の高齢が進む本町では農地放棄の加速が予想される。そこで、トマトの袋培地栽培を導入し、菌床シイタケ栽培用の遊休ハウスで試験栽培をする考えはないか。県内に本町より不利な条件で通年栽培をしている産地がある。水田が遊休地になった場合、普通畑への転換は難しいのでハウスを

建設して袋培地栽培を導入することが有効だと思いが、見解を聞く。**伊達町長** この栽培技術は土壌の状態などに影響されず、高齢者でも栽培管理が行える方式として有効な栽培方法と認識している。菌床シイタケ栽培用の遊休ハウスは点在して



トマトなどの袋培地栽培は軽度な作業なので、高齢者も栽培できます

おり、効率的な栽培をするためにハウスの集積と改修

が必要になる。その採算性も重要な判断材料と考えている。農家に奨励するためには他の作物と組み合わせる必要がある。岩泉農業振興公社で取り組み、一定の評価を見たうえで奨励する方法もある。町では、ピーマンやオクラを中心に野菜生産の振興を進めてきたが、トマトなど袋培地栽培に適した作目も関係機関と連携しながら検討していく。

鳥獣被害対策に ICTの活用を 関係機関・団体と協議検討する

有害鳥獣捕獲頭（羽）数

有害鳥獣名	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
ツキノワグマ	0	11	16
ニホンジカ	11	21	11
カワウ	56	51	46

平成 25 年 12 月 10 日現在

三田地議員 クマやニホンジカの被害について有効な策が無い中でICT（情報通信技術）を活用した鳥獣被害対策に取り組む考えは、**町長** 本町においてツキノワグマの被害は7月から9月頃に集中発生している。この被害防止のため、電気柵設置補助や、赤外線センサーが感知する追い払い機材を被害農家に貸し出して軽減に努めている。

岩泉猟友会会員を鳥獣被害防止対策実施隊員に任命し、今年度は過去最高となる16頭のツキノワグマを有罪捕獲した。ニホンジカは増加傾向にあり、1頭1万円を予算化し、銃器とわなで8頭を捕獲した。ICTを活用した取り組みは、一度に多く捕獲できる囲いわなに有効であり、情報収集をしながら関係機関・団体と協議検討する。



まちづくり総合計画を検証すべき

坂本 昇 議員
さかもと のぼる

幸せが実感できる町を構築する

伊達 町長

坂本昇議員 新岩泉町まちづくり総合計画の前期計画は、平成26年度までの設定であり、来年度は見直しの時期となっている。

震災復興はもとより、自立する地域社会の形成を唱えながらも、減少し続ける人口動態を見るに、改めて町のあり方、将来像を検証する時期と思うがどうか。伊達町長 町づくりは「自分の町は自分が創る」という強い意識を持つことと連帯する意識が必要になる。

後期計画では、「目指す目標値」の達成状況を検証しながら、町が将来にわたって持続し、「町民の皆さまが幸せを実感できる町を構築するための基本的施策の方向を明らかにする計画」となるよう、広く町民の声の集約に努める。

共聴施設改修費に補助を負担軽減策を検討する

テレビ



継続してテレビを見られるよう、共聴施設整備への支援が望まれます

坂本議員 テレビ共同受信施設組合事業について、これらの施設が20年を経過し、老朽化のため改修の必要性が生じている。

高額な受益者負担を軽減するために補助金制度の創設が必要と考えるがどうか。町長 現在、テレビ共聴組合は町内に63組合ある。伝送路の更新などに多額の費用が見込まれ、各世帯の負担も大きくなる。このことから、何らかの支援策を検討する必要がある

るが、町単独での支援は限界があるので、県内市町村や県町村会など関係機関と

も力を合わせ、強力に要望活動を展開する。

冬期間

交通確保を地域協働で連携をはかり取り組む

坂本議員 国道や県道、町道の除雪に関する連絡調整はどのようになっているか聞く。

また、こう配がきつい路線の凍結路面の管理は、地域の要望に沿った対応を行うべきと思うがどうか。

町長 町は冬期間の交通確保のため、町道・農道・林道・生活道、計393路線、約



町は393路線、約321キロメートルの除雪を行っています

321キロメートルの除雪を直営と業者委託の方法で行っている。県管理の国道・県道の除雪はすべて委託で行っており、同一方向の地域は国道・県道・町道の区別なく同じ業者で行い

効率的な除雪に努めている。今後は関係機関と連携を取りながら冬期間の交通

確保に一丸となって取り組む。

凍結路面は、住民から要望のあった場所などに砂置き場を設置し、道路利用者から砂散布に協力をいただいている。また、各支所にも融雪剤をストックしており、地域の人がいいつでも利用出来るよう手配している。



三陸道インター付近に道の駅を

みたちかずひこ
三田地 和彦 議員

本町の規模で三つ目は難しい

伊達 町長

町の考えを問う



岩泉龍泉洞インターチェンジ付近の様子

三田地和彦議員 三陸沿岸道路の田老岩泉間の工事計画が終わり施工段階に入った。この道路は有料道路でないことから、東北自動車道のようなサービスエリアは造らないとのことだが、車の素通りを止める考えから、インターチェンジ付近に道の駅が必要であると考える。町長の見解を聞く。

持った道路として、被災地復興のリーディングプロジェクト（※）として整備される。

岩泉龍泉洞インターチェンジは、龍泉洞や小本地区へのアクセスを考慮した南北両方向へのアクセス可能なインターチェンジのことから、当初、道の駅設置を検討した経緯がある。

一方、町にはすでに二つの道の駅があり、町の規模からいくと、二つの道の駅を有するという前例はほほえない。また、三つ目となる道の駅の新たなスペースの確保にも相当の困難が伴うことから、現時点では難しいと考える。

岩泉南インターに乗り入れ口を 現計画での利用に理解と協力を

三田地議員 小成地区にできる三陸沿岸道路の岩泉南インターチェンジは下り車線の降り口のみとのことである。



肉厚で良質な小本産ワカメ。三陸沿岸道路の開通で流通が活発になることが期待されます

茂師漁港が近い場所なので、海産物の流通面からも上り車線への乗り入れ口も必要と考えるが、町長の見解を問う。

町長 田老岩泉道路は本年3月27日に起工式を行い、現在、全力で工事が進められている。

従来の高速道路は約10キロメートル間隔でインターチェンジを配置していたが、三陸沿岸道路は地域の利便性や防災性を考慮し、その半分程度の間隔で配置する。このことにより、使

案しつつ、早期に事業効果が発現したいとの考えである。

岩泉南インターチェンジ（仮称）は、乗り入れが久慈方面に限られるため、茂師漁港から南方向へ向かう車両は、田老北インターチェンジ（仮称）か岩泉龍泉洞インターチェンジを利用することになる。

現計画での利用に、理解・協力いただきたい。

（※）優先的に行う事業

災害住宅の駐車料金を無料に

はやしざききょうじろう
林 崎 竟 次 郎 議員



公平を保つため負担いただく

伊達 町長

町の考えを問う

1区画千円の駐車場
(災害公営住宅)



林崎竟次郎議員「町の災害公営住宅の駐車料金は千円であるが、田野畑村や野田村は無料としている。被災者へ心の支援として駐車料金を無料にするべきではないか。」
伊達町長「車を所有していない人や、世帯によって2台、3台保有している人もいるので、一般公営住宅入居者との均衡なども考え、町営住宅管理条例に基づき従来どおり負担をしていた。」

国保税を引き上げ前に戻せ 現状で安定運営をはかる



ウォーキングで元気もりもり！（神成地区散策道）

林崎議員「かつて厚生労働省は、国民健康保険特別会計財政調整基金は、保険給付費の過去3年間の平均5%程度が望ましいとしていた。これにより計算すると約5100万円の基金で良いことになる。町の平成24年度末基金残高は約4倍である。このことから、国保税率を引き上げ前に戻す考えはないか。」
町長「国は、基金からの繰入れについて「保険税の引き下げの経費に充てるため

に、基金の取り崩しを行うことは、国保財政上適切でない」としている。「過去3カ年の平均給付費の5%」は、県の回答により、基金の保有額の下限であると認識している。
町の被保険者数の場合、中長期的に安定した運営を行うための望ましい基金保有額は「3カ月から4カ月の給付費相当額」であり、国保中央会と県から示されている。これに照らし合わせると、町の基金保有額は

感染症の大流行などに備えて基金を管理しています

国保会計財政調整基金

年度	年度末基金保有額	※
平成22年度	3億6938万円	4.1カ月分
平成23年度	2億8362万円	3.1カ月分
平成24年度	2億3371万円	2.5カ月分

※この欄は、年度末基金保有額が、過去3カ年の平均保険給付費の何カ月分になるかを表しています

決して過大な額ではないと認識している。
国保制度を取り巻く環境は激変しており、他保険の給付費などの状況が拠出金や交付金に反映される仕組みで、収支に大きな影響をおよぼしている。税率改正を行った今年度も財源不足が見込まれ、基金の取り崩しを予定していることから、現状のままで国保会計の安定運営を行う。

野館泰喜議員 改良された押角トンネルを通りたい。しかし9年後の完成では通れないかもしれないという高齢者の切実な声がある。5年以内に完成し住民の希望をかなえる意思はないか。伊達町長 要望に応えたい気持ちには誰よりも強く持っている。宮古市と連携し、押角トンネルの早期整備に向けた整備促進期成同盟会を立ち上げ、県や関係機関に対し強力に要望活動を展開する。

事業検証し抜本的な施策を 新年度の予算で具現化する



新たな少子化対策が
実施される見込みです

野館議員 これまで実施した少子高齢化対策を検証し、抜本的な施策の構築が必要である。一組の夫婦が子どもを育てる人数について、国の平均が1〜2人でも本町は3〜4人と声高に言えるための思い切った行動を期待する。

町長 町独自で、出産までの一定期間待機するときの宿泊費の助成や妊産婦が健康診査を受けるための通院費の助成など手厚い子育て支援を行っている。これらの事業導入によるメリット・デメリットの検証を含め、全庁をあげて少子化対策の施策立案に着手している。

野館議員 小川地区に小学校が4校あるが、すべてに複式学級がある。学校は、教師から教わると同時に級友から教わることの多くが生きていく上で貴重な要素である。

しかし、出生数の減少により学校の小規模化が進むことが予想されることから、近々に「今後の学校のあり方」についての検討委員会を立ち上げ、学校の適正な配置に関する基本的な考え方と短期・中期的な具体的方策の検討を進める。

押角トンネル完成を5年以内に

野館 泰喜 議員
のだて やすき

要望に応えたい気持ちは強い

伊達町長



スクールバスで登校する様子

「会」開催報告

町議会では議会改革の一環として、昨年度から「議員と語る会」を開催しています。

今年は、11月25日から30日にかけて町内6カ所において坂本昇総務、野館泰喜産業両常任委員長を座長に開催しました。

総勢173人の参加者があり、9月の定例会の報告と意見交換を行ったところ、延べで約90件の質問や意見・提言がありました。

また、同時に行ったアンケートでは、議員と語る会についての内容や次回への要望に100件以上の記述がありました。

皆さまのご協力に感謝しますとともに、議会改革を進める上で参考にさせていただきます。

また、「議員と語る会」の開催内容・方法についても提言をいただきました。

紙面を借りて御礼申し上げます。



今年度最初に開催した小川地区

町民の皆さまが気軽に参加できる「語る会」となるように努力するとともに、今後も議会活動の情報を積極的に公開し、より一層参加しやすい環境を整え、町民の皆さまとの意見交換会の機会を作って参ります。

各地区での質問・意見

小川地区

▼質問

- ・子育て支援住宅の内容はブルートレインの中身は
- ・前号の議会だよりに掲載されていた木の駅の内容は

▼意見・提言

- ・少子化の原因を一つ一つぶし具体的に実行すべき
- ・働く場所がないため高校を卒業し出ていく人が多い
- ・高齢化対策を考えてほしい。年金7万円で病院代8万円という実態もある
- ・緊急車両が入れないところがある
- ・意見を聞いていたがみんなで協力して頑張れ
- ・4年に1回選挙があるが、

- ・小川地区公共施設整備は押角トンネル2022年度完成は遅すぎる。何とかならないか
- ・学力の問題から複式学級という体制は正常か。根本的な問題はないのか
- ・地価は下がっているが固定資産税は下がらない。
- 理由は
- ・岩泉町は広い。町内にみんな集めてコンパクトシティにするのか、地域を守っていくのか
- ・地域振興協議会のNPO化はどうか
- ・国道340号整備にかかるとJRからの20億円は足りない。倍でも可能ではなかったか

大川地区

議員が仲人を1組ずつやれば少子化対策になる
若い人に1次産業の振興を訴えるべきだ



議員に質問している様子（大川地区）

▼質問

- ・JR岩泉線の押角トンネル早期着工と早期完成は
- ・田山線と栗宿線の冬の道路管理は
- ・シカの駆除対策は
- ・釜沢にトンネルを
- ・ドクターヘリの活用方法

▼意見・提言

- ・閉校になった校舎は福祉施設として使うべき
- ・除雪作業が宮古市・盛岡市に比べて岩泉は劣るので丁寧に行くべき
- ・大川駅前の土地をJRから提供してもらい利用してはどうか
- ・議員は現地の掌握を

安家地区

▼質問

- ・議員欠員1人で議会活動に支障がないのであれば、定数を減らしても良いのではないか
- ・高齢化と健康対策および救急対策
- ・木の駅とは
- ・地産地消と移動産直
- ・6次産業化と地域加工施設整備
- ・元村日向の護岸工事はどうなっている
- ・テレビ共聴施設改修に関する補助は
- ・大雨時の決壊や水道被害対策
- ・町民バスの運行は生徒がいなくなっても続くか
- ・地域振興協議会とNPOの違い、今後の方向性は
- ・ぴーちゃんねつとの活用や修理について

第2回

「議員と語る」

▼意見・提言

- ・一軒家でも水道施設の補助を
- ・ウライ撤去の要望継続を
- ・日蔭の農道を町道に格上げを
- ・ブルートレインを置く場所がもつと広い場所でも良かったのでは

有芸地区



真剣に耳を傾ける参加者（有芸地区）

▼質問

- ・災害通信体制を議会ではどう取っているか
- ・JR岩泉線の廃止経過は
- ・JR岩泉線のレールは撤去できるか
- ・復興予算の返還はないか

▼意見・提言

- ・ラジオの難視聴改善は
- ・龍泉洞園地の整備は
- ・ブルートレイン利用者への食事提供は
- ・メンズクメ線の改良実態
- ・小規模校児童の自信・誇りの確保を
- ・PPP問題、畜産も含め、小規模地域密着型の振興を
- ・盛岡までのインフラ整備
- ・小川地区に公衆トイレの開設を
- ・選挙後も顔を見せろ
- ・ふれあいランド岩泉周辺の環境整備を

岩泉地区

▼質問

- ・公職選挙法違反の逮捕者が出たが議会の信用をどう回復するのか
- ・町道のり面の刈り払いが出来ないか
- ・大規模風力発電の話はその後どうなったか



開会に先立ちあいさつする加藤久民議長（岩泉地区）

▼意見・提言

- ・若者向け住宅の建設の取り組みは
- ・公民館・図書館の跡地の利用は
- ・JR岩泉線の廃止による鉄路の利用計画は
- ・観光問題をどう考えるか
- ・有芸方面の町民バス運行について
- ・沢中・室場線の町民バスの乗車率が悪い。検討をした方が良い
- ・子育て環境の充実を
- ・被災住宅への現行制度を超えた、さらなる町独自の支援を
- ・町の中が寂しい。お茶を飲む場所の設置を

小本地区

▼質問

- ・造成地の土地売買代金の説明で、復興庁担当者との復興課職員の説明が違う。どちらが本当か
- ・移転先の宅地を100坪欲しいが、50坪しか買えない。対策がないか
- ・期成同盟会で用地買収の話もあったがどうなったか
- ・被災した小本生活改善センターは使われているが、なぜ小本小学校は使えないか
- ・見内川への義援金は被災者に渡ったのか
- ・小本トンネルと中野坂の避難所建設はどうなった
- ・PPPについて聞く。議会は賛成か反対か
- ・秘密保護法について聞く。議会は賛成か反対か
- ・びーちゃんねつとで議会放送は出来るか
- ・小本地区の参加者が少ない訳を考えてほしい
- ・真剣に「住める街づくり」

▼意見・提言

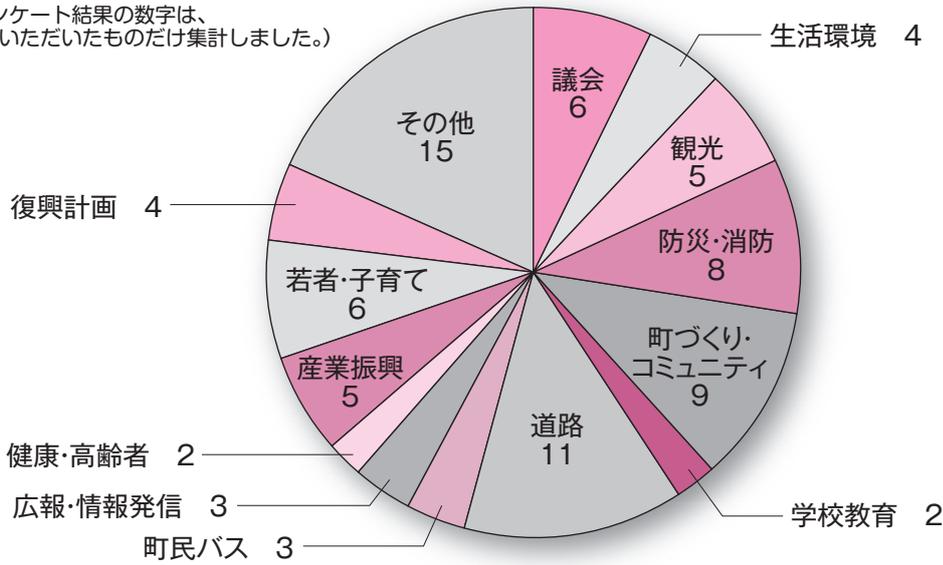
- ・に取り組む真の町議を望む
- ・小学校のプールを防火用水に利用してはどうか
- ・小本の屯所は解体しないでほしい
- ・町民文化展の町長賞の賞状は額に入れて欲しい
- ・中野地区の排水路の整備
- ・岸地区の砂防ダムに土砂がたまり危険である
- ・小本ふ化場へ通じるボックスカルバートに砂が貯まっている
- ・小本トンネルからの湧水を小水力発電や防火用水の水利として利用できないか
- ・中野地区町道は、側溝蓋にがたつきがある。また、工事などで舗装が波を打っており危険である。改善を



プロジェクトを使って説明する様子（小本地区）

議員と語る会 アンケート結果

(アンケート結果の数字は、
記入いただいたものだけ集計しました。)



ご提言・ご意見など町民の皆さまからいただいたアンケートをまとめてグラフにしました。件数が多いものは道路(改良、除雪、新設など)についてでした。

地域によりそれぞれ課題がありますが、町議会では、町民の皆さまと一体となり、全力で取り組んで参ります。
(報告 広報編集副委員長 三田地久志)

お知らせ

次の定例会は
2月18日開会予定です

詳しくは議会事務局 (☎22-2111) に
おたずねください

	岩泉	小川	小本	大川	安家	有芸	合計
参加者	25	33	21	31	40	23	173
アンケート回収数	24	28	19	25	34	18	148

1. 性別

男性	女性
117	27

2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
0	2	7	7	39	60	27	9	1



参加者が一番多かった安家地区

3. 参加回数

1回	2回
55	73

4. 開催時期

良い	悪い
121	13

5. 時間帯

良い	悪い
128	7

6. 開催場所

良い	悪い
128	3

委員会レポート

今後の町づくりに役立てるため、総務常任委員会は11月19日・20日に秋田県を、産業常任委員会は10月1日に八幡平市などを視察しました。

ここでは、視察内容を中心に各委員会の活動を報告します。

健康づくり

秋田県大仙市では、「メタボに気をつけて！」をテーマに、千人を超える市民に人間ドックの助成や特定健診の受診率向上を目的に、パンフレットやカレンダー、ポスターなどを作成していました。

また、食育推進計画で「塩分摂取量」や「野菜摂取量」など18項目について5カ年後の目標値を定め、6人の栄養士が健康推進に取り組みました。

本町で進めている健康づくりと共通するところが多く、いかに健康づくりが大切か再認識したところです。
(総務常任委員 林崎寛次郎)

保育園民営化



大仙市で説明を受ける総務常任委員

保育園の民営化について32の保育園を民間で運営している秋田県大仙市を視察しました。

合併当時すでに旧大曲市内の11の保育園が社会福祉法人「大曲保育園」によって運営されていました。合併後、新たに民営化を進めるために社会福祉法人「大空大仙」を設立し、市の派遣職員とともに保育園を運

学力向上

文部科学省の全国学力テストでトップクラスの成績を維持し、国内外から約600人の視察を受け入れている秋田県東成瀬小学校(児童数121人、職員16人)で授業見学や教育行政視察を行いました。

特に読書活動が素晴らしい取り組みでした。授業や給食に関する



東成瀬村で授業の様子を見学する総務常任委員

トマト栽培

八幡平市と紫波町でトマトの栽培、加工、販売について視察しました。

トマトの栽培方法は、袋培地、発泡スチロール器、培養液による水耕栽培と3とおりでした。

トマトは消費がまだ伸びる余地があり、有望な品目であると認識しましたが、どういふものを作り、売り先をどうするかが課題であると感じました。
(産業常任副委員長 佐々木久任)

再生可能エネルギー

紫波町は「今の環境を保全し、創造し、百年後の子どもたちに確実に引き継ぐこと」をまちづくりの目標として、循環型まちづくりに取り組んでおり、わかりやすい内容でした。

本町でも循環型まちづくりについて積極的な議論が展開されており、具体的な姿が見えてきておりません。町民に分かりやすい形で取り組まなければなりません。
(産業常任副委員長 佐々木久任)

視察受け入れ



太陽光発電設備を視察する産業常任委員

議会議報編集委員会

10月16日 秋田県にかほ市議会 7人

11月14日 山形県西川町議会 5人



ブルーな龍泉洞

海にしようか、山にしようか、はたまた川にしようか。被写体を求めて町内を走り回り久しぶりの龍泉洞へ。

「パンフレットを参考に」とはなかなかいかず、ごまかしではありますが「クロスフィルター」をレンズに取り付けシャッターを切してみた。

いわいすみ再発見

結果、LED&デジタルカメラの組み合わせの難さが身に染みた。次はきつと満足いく写真が撮れそうです。

八重樫定津彰(岩泉 52歳)

私・の・好・き・な・ア・ン・グ・ル・ 74

表紙の写真

今シーズン初めての積雪の日。子どもたちは、休み時間のチャイルドにも外へ！朝より雪が融けちゃったね〜と残念そうでしたが、少ない雪の中、そり遊び、雪合戦、雪だるまづくりを楽しんでいました。



編集後記

今年の干支は甲午(きのえうま)です。この年は、勢いが盛んな年であり、上手に乗りこなすと飛躍の年になるそうです。私たち編集委員も手綱を引き締めて、今年も頑張つて参ります。

今号は町民の皆さまに、より新鮮な情報をお届けしたいとの思いから、早めの刊行となりました。編集期間が短くなりましたが広報紙の質を維持し、広報・広聴に努めて参りますので、皆さまのご協力をお願いします。

(編集委員 八重樫龍介)

議会広報編集委員会

議長	加藤久民
委員長	合砂文司
副委員長	三田地久志
委員	八重樫龍介
	林崎 竟次郎
	野館 泰喜
	坂本 昇



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会一問伐に寄与した紙」を使用しています。